

売れる米技術情報 ～売れる「新潟なんかん米」づくり運動～

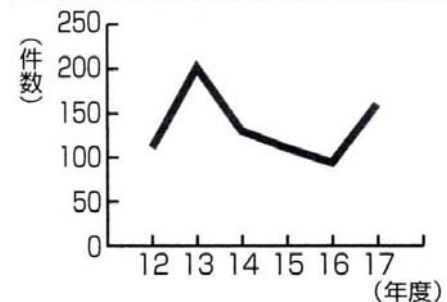
- ・土づくりは秋作業が基本！19年産高品質米生産は今秋から始まっています！
- ・土づくり肥料の散布と秋すき込みで、効果が高く効率的な土づくりをめざしましょう。

平成18年9月13日
新潟なんかん米改良協会
県央農業振興会議
三条農業普及指導センター

高品質・良食味米生産は、土づくりが基本です。収穫後の稲わら・籾殻等を活用して積極的に土づくりを行いましょう。

一方、最近一部の稲わらや籾殻の焼却による苦情件数が増加しています。稲わら・籾殻は焼却せず、生活環境等にも配慮した生産活動を行いましょう。

稲わら等焼却による苦情件数



1 土づくりは稲わら・籾がらの秋すき込みから

秋すき込みは、土壌の保水性や生育後期の窒素供給力を増加させ、異常気象下における稲の抵抗力向上、登熟向上による高品質・良食味米の安定生産に欠かせません。また、初期生育期の窒素飢餓を軽減し、根腐れの原因となる硫化水素の発生を抑える効果があり、初期生育の確保に役立ちます。

2 秋すき込み時の土づくり肥料の散布で、ケイ酸とリン酸の補給を

県央地域の土壌はケイ酸、リン酸が不足傾向にあります。各地域の土壌実態に即した土づくり肥料を積極的に利用し、効果的な土づくりに努めてください。

3 秋すき込み作業のポイント

- (1) 稲わら等を分解する土壌微生物は、15℃以上の地温で活発に活動します。すき込みを10月中旬までに行うことで、稲わらの腐熟が促進されます。また温室効果のあるメタンガスの発生も抑制されます。
- (2) すき込みの耕深は、作業能率や酸素供給を考慮し、5～10 cm程度の浅うちとしましょう。
- (3) 秋すき込みをはじめて行うほ場では、腐熟促進剤の利用を検討しましょう。

4 稲わらの焼却は年々少なくなってきました。焼却ゼロを目指しましょう

もみがらは非常にゆっくり分解されますので、すき込んでも生育への悪影響はなく、物理性の向上に効果があります。もみがらは稲わらと一緒に全量水田にすき込みましょう。

米の保管場所に複数の鍵をつけるなど、農作物の盗難を防止しましょう。

乾燥・調製時の運転音や排塵の飛散防止等にも配慮しましょう。

～目指せ1等米！『なんかん米 光る粒張り 粒ぞろい』～